

高品質な伊賀米を継続的に生産できるスマート営農体系の確立(伊賀市・名張市)

実施主体：伊賀米振興協議会 取組期間：令和2年～ キーワード：生育予測、センシング、水管理システム

1 産地の概要

<産地の現状・課題>

- ・伊賀地域の大半は中山間地域に分類される。農業産出額に占める米の割合は28%(令和元年)、平均単収は495kg/10a(令和元年)といずれも県平均より高く、県内では良質な米産地として知られている。
- ・水田経営の担い手においては、農地の集積が進み、経営面積が急速に拡大しているため、生育状況や病害虫発生状況の把握が十分にできず、1筆ごとのきめ細かな栽培管理が困難となっている。また、新たな担い手への技術継承も課題となっている。
- ・技術継承や適切な栽培管理の実践を推進するため、ほ場管理システムの導入や労働時間の長い水管理や畦畔除草作業のさらなる省力化が求められている。

2 取組体制

<構成員と役割>

- ・生産者(実証ほ設置、ほ場管理、先端技術の効果検証)
- ・農業者団体(JAIがふるさと、JA全農みえ:実証支援)
- ・市、県(伊賀市、名張市、農業研究所、伊賀地域農業改良普及センター:全体運営、連絡調整、事業実施への助言、栽培指導)



ドローン空撮 現地検証の様子



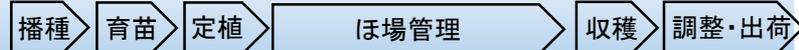
生育基準田運用研修の様子

3 新たな営農技術体系の確立に向けて

<目指す産地像>

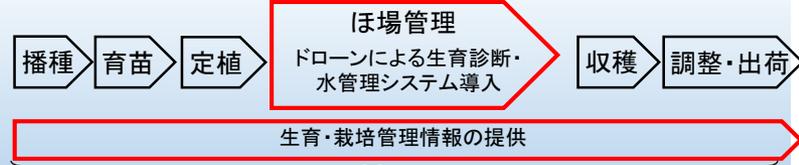
- ・生育基準田等を活用した生育・栽培管理情報の迅速な提供による伊賀米の高品質化
- ・ドローン等の先進技術を活用した伊賀米高品質安定生産の達成と担い手の経営安定化

現在の営農技術体系



- ①ドローンによる生育診断の導入
- ②水管理システムの導入

新たな営農技術体系



生育・栽培管理情報の迅速な入手により、適期作業の徹底、ドローンなどによる省力化が図られる。

<新たな営農技術体系の効果(検証結果)>

- ・生育予測データやドローンによる生育診断を栽培管理に活用
 - :倒伏割合 5%(平年) → 0%(R2)
- ・水管理システムによる省力化効果
 - :遠隔ほ場における水管理の所要時間が最大3~4割減(生産者評価)